

2010年、環境市場の人材需要は100万人超！

月刊 **環境ビジネス**

5
May
2006

人材力

成長市場を
勝ち抜く
キーワード

大手からベンチャーまで環境の仕事大公開

■日進月歩の環境ビジネスにハンデはない

■急増する環境・ベンチャーを目指す学生たち

■人気企業・団体の就職・転職最新事情

■中小・ベンチャー企業の人材活用ノウハウ

第2特集 病院・行政・処理事業者による安全確保の協力体制

医療廃棄物 適正処理の新手法

環境自治体最前線 福岡県の環境施策

環境・水素・人材・観光でアジアNo.1都市を目指す

特別企画

IT技術の導入で作業効率大幅アップ
ビジネスを変える 環境管理システム

好評連載

■食品リサイクル成功の秘訣



販促会議5月号別冊 2006年5月1日発行(毎月1日発行)通巻47号

水溶化処理技術により「脱焼却」 紙おむつのリサイクルシステム

紙おむつのリサイクル ◆ トータルケア・システム

3年間の実証実験を経て 業界全体で循環システム作り

トータルケア・システムは、排泄ケア関連商品の開発・販売等を手がける同社・グループ会社のケア・ルートサービスを筆頭に、設備メーカー、リネンサプライ会社、紙おむつメーカー、医療機関の出資により、2001年11月に設立された。

同社は、大牟田エコタウン内に紙おむつリサイクルプラントを建設、2005年4月より本格操業を開始している。1997年に紙おむつの焼却処理に替わる水処理の方法を考案し、翌年、福岡大学の松藤教授に研究を委託。2000年に産学官共同研究開発事業の認定を受け、8年間の準備期間を経て事業化に至った。

同施設では、病院や施設などから回収した使用済み紙おむつを水溶化処理技術を用いてパルプを分離・回収する。上質パルプを紙おむつの原料として再利用し、低質パルプ、ポリマー、汚泥は土壌改良剤として緑農地へ還元する仕組みだ。

「地球環境」と「高齢福祉社会」 2つの社会問題に貢献

同施設の処理能力は使用済み紙おむつ20トン/日だが、そこから回収されるパルプは約3トン。メーカーの製造ライ

ンに乗せるには少量であり、量の確保が課題とされる。「今はやっと一つの工場ができた段階。将来的に、使用済み紙おむつの回収・一次処理を行う地域密着型施設が各地域に置かれ、そこから原料を収集して再生する専門工場が設置されれば、効率的なリサイクルの仕組みが完成する」(長氏、以下同)。現在、近隣の県で一次処理施設の検討が進んでいる。

現状では、紙おむつの年間生産量100億枚のうち、約70%が家庭で使用され、廃棄されている。よって、今後は家庭から出る紙おむつの回収ルートの確立にも取り組む考えだ。「社会システムの面で行政のバックアップを求め、最終的には紙おむつもリサイクル資源物に指定されるのが理想」とする。

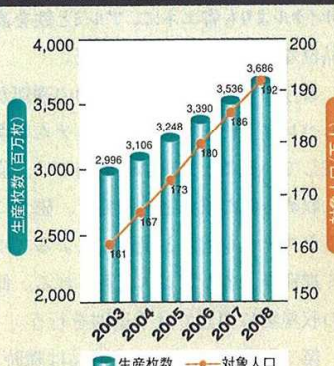
施設の建設には地域住民の理解が不



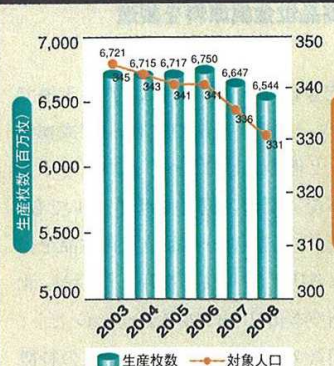
代表取締役
長 武志氏

可欠だが、同施設では住民が視察した際、「臭いがほとんど出ないこと、そしてこの事業の意義を理解していただき、賛同を得た」という。今後の展望として、「紙おむつの年間需要は10%以上伸びており、これほど市場性の高いリサイクル商品は他にないのでは。紙おむつ使用者の経済的・精神的負担を軽減するとともに、環境負荷のない処理方法を実現させたい」と、思いを語った。

大人用紙おむつ生産枚数と使用対象人口の推移



子供用紙おむつ生産枚数と使用対象人口の推移



生産枚数は、子供用が減少しているが、それ以上に大人用が増加。紙おむつの平均重量は、大人用：60g、子供用：40gと言われており、トータルの生産量は増加傾向にあると考えられるため、廃棄量の増加が予想される。

(出所) トータルケア・システム